

巻頭言

「大衆は批評家である」

常務執行役員 土木本部長

塚原 明彦

今回の掲載は 40 編，施工部門の中には私も受注と施工に携わった工事も数件含まれており，楽しく読ませていただきました．

さて，2014 年度 7 月 24 日付けの経済調査会等の発表では，2014 年度の建設投資は前年度比△1.8%の 47 兆 8,600 億円，2015 年度予想については前年度比△3.8%の 46 兆 200 億円という見通しが出されており，特に 15 年度においては政府建設投資が大幅な減少の見通しとなっておりますが，インフラ老朽化対策事業や東日本大震災からの復興などが停滞することのないよう適切な予算配分が望まれると結んでもあり，今後堅調な発注を期待していきたいところです．

現在の建設業界の状況は，まさに東日本大震災の復興関連工事と 2020 年に開催が決定された東京オリンピックの関連工事，そして高度成長期に首都圏を中心に整備されたインフラの老朽化対策の対応で動いております．わが社においても新中期経営計画基本方針に新設受注の強化と今後のインフラ老朽化対策を盛り込んでいくところであり，部門の更なる強化を図っているところであります．

特に震災復興関連の現地においては資機材の高騰や労務不足による入札不調，現在稼働中の現場工程の遅れが新規発注の遅れにつながっていく悪循環に陥っている状況です．わが社のメインである PC 部門も業界全体で PCaPC の有効性を土木

建築を問わず、高品質と省力化という最大のメリットを前面に出してPRしており、すでに採用に至った物件も多数あります。高品質と省力化そして工期の短縮は今後の建設業に求められる最大のニーズであり、PCaPCをメインとした新技術の開発は、わが社が今後生き残るため、勝者になるための至上命題であります。

長年蓄積してきたPCの技術の視野をさらに広げて、土木建築にこだわらずあらゆる部門へと発想を展開して素晴らしいヒット商品が生まれてくるのを期待しています。

最後になりますが冒頭の言葉を、今後を担う若手技術者へ、私が敬愛してやまない技術屋である本田技研の創業者、本田宗一郎の名言を贈ります。「市場調査は、ある意味で有効だと思う。たとえば既成の製品の評判を探ろうという場合である。しかし独創的な製品をつくるヒントを得ようとしたら市場調査の効力はゼロとなる。大衆の知恵は決して創意をもっていないのである。大衆は作家ではなく批評家なのである。大衆が諸手を上げて絶賛する商品は、大衆のまったく気のつかなかった楽しみを提供する新しい内容のものでなければならない。」

以上、ご安全に！

2014年7月